



通信

電話048-480-4150

2020年7月31日発行

えんの庭 ボランティアさん



長雨も一段落
元気な太陽の光が
恋しいなあ～ 青木



早く終息して
ほしいです 江平

きれいな花が
咲くといいなあ～ 阿保



実際にみえているのは庭担当の方だけですが、会えなくても、ボランティアの皆さんそれぞれの思いを届けてくださっています。折り紙担当の丸山さんは、たくさんの折り紙の花を作って持ってきてくださいました。オカリナ演奏の朝倉さんをご自分の演奏した曲のCDをプレゼント。いつもおいしいスープやお味噌汁を作ってくださいる平田さんは、ご自宅の庭の花をたくさん玄関先に置いて行ってくれました。ありがとうございます。

— コロナの中で介護の現場を守る —

緊急事態宣言は解除されたものの、新型コロナウイルス感染症ウイルス感染者数は増えるばかり、そのさなかに Go to travel とはどのようなことでしょうか。感染拡大には何ら対策を打たず、これでは不安になるばかりです。



7月12日、暮らしネット・えん第18回定例総会を開催いたしました。書面開催ではなく、通常の総会形式で人数を絞って開催しました。丁寧に説明して、しっかり質疑することをモットーにしていましたのに、大変残念です。

ここで、今年度の主な計画についてお知らせします。

【基幹相談センター開始】

今回、新座市からの委託業務『基幹相談支援センター』開始に伴う定款改定を行いました。高齢者相談センターの障がい者版のような業務で、虐待ケースなどに専門的な支援、地域の相談支援人材育成支援、など中核的な役割を担います。えんと言えば高齢者の介護という印象を持たれる方が多いと思いますが、そもそもの始まりは全身性障がい者の介助ボランティアグループです。訪問介護や生活サポート事業などを行い、2014年からは相談支援(障がい者・児ケアマネジメント)を行っています。

事業を行う中で、基幹相談支援センターの設置を新座市に求めてきた経緯があり、2020年度から新座市がこの事業をスタートすることになりました。しかしながら、これを担う法人になることは想定していませんでしたが、引き受けたからには、しっかり役割を果たせるよう力を尽くします。

【新型コロナウイルスとえん】

2月の終わりに感染が広がり始めたころから、すべての事業で感染防止策に取り組んでいます。介護サービスが停止してしまったら、利用者さんとご家族の生活はあっという間に崩れます。高齢者は重症リスクが高く、認知症がある方はこの状況を忘れてしまう。独居や老々世帯が多い中、遠方に住む子どもたちが介護のために来訪することさえ困難になっています。約8割が自宅ですから、在宅介護サービスの役割はたいへん大きいのです。ところが、訪問介護を始め在宅系の介護サービスは、報酬の引き下げなどで体力を弱らせていたところに、コロナの追い打ちで小さな事業所は風前の灯。閉鎖・倒産は何とか食い止めたい。

今年度は計画していたケアサポートえん恒例のお花見、認知症カフェ、だれでも食堂にいざ、えんが大切にしてきた地域とつながる催しは開けません。カフェや食堂の常連さんたちはどうしていらっしゃるでしょうか。介護サービスを利用している方々にはまだ見守りの目がありますが、介護未満の方々がとても心配です。まず、中止になった認知症カフェの日に認知症電話相談をすることになりました。これは市の方針でもありますが、えんは第三水曜日に10時

から16時まで実施します(詳細は8ページに)。ほかにもできることはないか、一同知恵を絞っているところです。

【寄付】

NPOの認定制度は、NPO 法人への寄附を促すことで、NPO 法人の活動を支援するために税制上の優遇措置として設けられました。えんも法律改正で認定に手が届くようになってすぐ認定を受け、おかげさまで毎年多額の寄付をいただいています。これまで寄付の使途を財源がない文化事業や地域交流などとしてきました。しかし今年度は思い切って職員の待遇改善のためにも使わせていただくこととしました。

そのきっかけが今回のコロナ禍です。介護職の賃金は全職種平均より月額9万円低い。希望者が壊滅状態の理由もこれが大きいと思われます。えんの収支は比較的安定していますが、職員賃金アップに避ける余裕は少なく、永年勤続者が多いのにその努力に報いることができません。国の改善策は強く要望を続けますが、待ってられません。介護の仕事につく人を増やしたい。離職しない職場環境を整えたい。まずえんでできることから始めたい。そのための応援をお願いいたします。

(代表理事/小島美里)



真夜中のグループホームで

お日様がちょっと隠れた夏至もすぎ、くるりと今年も半分を超えてきました。時の流れが速く感じる。多くの人が共感するであろう言葉すらも、はるか後方に見えるかのようです。

真夜中のおり「子供たちは…帰った?」と、ばつが悪そうに尋ねてくる90歳。ベッド上「赤ちゃんが生まれそう」と入れ歯の入っていない口に笑みを浮かべた92歳。「何言っているのよ、私たちいどこじゃないの」と孫ほどの存在に少女のような瞳でたしなめる85歳。朝にはけろっとご飯を食べていても、いくら待っても赤ちゃんは出てこなくても、彼女らのその「時」は、確かに存在していた(いる)ように思います。

人は時と時の間を認識し、「時間」を創り出しました。でも植物には「時間」は無いといえます。ただ、芽吹き「時」を待ち、花を咲かせる「時」を待つ。人もまた、5次元の世界では、過去も現在も未来もなく、自由に旅ができるとか。呆けが深まるその先にはそんな世界を体験できるのかもしれませんが。

とはいえ、時間に追われて夜勤の朝は慌ただしく、あっという間に9時が来る。今年もあと半分。よろしく願いいたします。

(グループホームえん/林和秀)

新型コロナウイルス、暮らしネット・えんでは その2

『緊急事態宣言』は解除されましたが、首都圏の感染者数は増える一方のこの頃です。各事業所の様子、スタッフの生活、介護保険の奇妙な特例措置など、えんとその周辺の様子をお知らせします。



◆ケアサポートえん◆

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が解除される頃から、徐々に通所施設が人数制限や時間の短縮はあるものの再開し、通常以外のヘルパーの派遣は徐々に減ってきました。短期入所施設も今まで通りの利用が出来るようになり、利用できずストレスで気が滅入ると言っていた利用者さんのご家族もやっと一安心。保育園・小学校等も始まり、スタッフも少しずつ今までの働き方が出来るようになってきました。とは言っても作業服屋さんには防護服代用のツナギを買いに走り、発熱された利用者さんには慎重な対応が続いています。消毒薬やマスク等必要な物品を寄付して下さる地域の方々にも支えられ、気づけば5月6月は、あっという間に過ぎてしまいました。

やっと落ち着いたかな？でも感染者がまた増えているねと、日常生活も自粛しつつ過ごしています。
(西本由美子)

◆グループホームえん◆

グループホームえんでは、「緊急事態宣言」が解除された後の6月半ばからご家族の面会を再開しました。ただし、コロナ以前のように「いつでもどうぞ！」というわけにはまだまだいきません。電話で事前打ち合わせ、面会が可能かをお答えしています。そろそろお部屋でゆっくり過ごしていただけるかなあ…と考えていましたが、この原稿を書いている7月初旬には、またじわじわと感染者が増え始め、玄関での面会をお願いした方もいました。早く安心してご家族をお迎えしたいものです。
(井上暁子)

◆デイホームえん◆

当初1日の利用人数9人のところ3~4人に減らしていましたが、現在では6人前後まで増やしています。昼食時は密集しないように和室、サンルーム、相談室を使用し分散して食べるようにしています。お休みされていた方の中には、ステイホーム中に妄想がひどくなったり、意欲や筋力の低下がみられた方もいました。一か月ぶりに迎えに行くと、スタッフの顔を見るなり「行きたかった」と涙ぐまれた方もいました。

ボランティアさんたちは外回りの庭仕事の方たちのみ活動されています。先

日自粛中のボランティアさんに電話すると、「孤立してました！利用者さんたちの顔を思い浮かべていたのよ」。一日も早くボランティアさんと利用者の明るい声を聞きたい！
(三輪絵美子)

◆ケアプランえん◆

緊急事態宣言が解除されたが、何もかもが元通りとは言い難い日々が続いている。手指や電話、パソコン、デスク周りの消毒、マスク、フェイスシールド着用は常態化し、リモートワークも継続し、6人のケアマネが全員集合するのは、毎週月曜日の会議 1 時間程度。モニタリング訪問は極力短時間を心掛け、担当者会議は密にならない場所での開催や、招集事業所を少なくするなどして対応している。施設によっては、未だに面会や見学ができない所もある。まだまだ感染に対しての不安は消えない。

そんな中、なんとも奇妙な特例が出て、頭を抱えていたら、「すぐやるNPO えん」は、さっそく国会に要請行動に出かけた。その経過は次に。

(松縄和代)

～奇妙な特例措置、撤回を求めて国会へ～

先日、えん入職 1 年目に大変貴重な体験をさせていただきました。

今回のコロナ禍で最も大きな減収となっている通所系や短期入所系サービスに対し特例措置が出されました。カンタンに言うなら、利用者の同意を得られたら、デイサービスの場合は利用時間より 2 時間プラスした報酬にしてよいというもの。コロナの影響で経営難の事業所側には減収補填はのどから手が出るほど欲しい。でも利用していない分を利用者に負担させるのは理不尽、介護保険でなくコロナ対策の費用で対応してほしい。百歩譲っても利用者負担はなしにしないと、信頼関係で成り立つ利用者との関係、連携が最重視される事業所間に亀裂が入ります。この危機的状況を訴えるべく、衆議院第一議員会館で行われた緊急要請に、小島代表とケアプランえん管理者の内堀と共に私も参加したのです。

それはよく見るテレビの光景でした。要請内容に対する厚生労働省の回答は、「この措置は減収補てんではなく、感染対策に要した時間を介護報酬上評価した。利用者にもメリットがある」。ビックリです。介護家族は声を震わせ「メリットがあるとは！納得いかないから同意できないと言ったら、長年かけた事業所との信頼関係が崩れる」と。この方は限度額を超えて利用しているので 10 割負担で 1 回あたり 2000 円は増えます。ケアマネは「訪問介護との時間帯が重なってしまい、返戻覚悟で実績を計上した。利用者は理解の上で同意しているか疑わしい」と現場が抱える問題を指摘。経験が浅い私でも、そのやり取りに深く

深くうなづきました。同席した宮本徹議員から「いや、これは損失補填対策。与野党とも要求してきた。政権が損失補填は認めない方針なので、理屈に合わない利用者負担が出てきた」と説明があり、なぜこんなことになったかようやくわかりました。おかしいことは筋道を通して訴えていく大切さを知りました。

終了後、初めての議員会館食堂で久しぶりの外食。緊張感から解放され、貴重な体験と美味しさで満たされ、改めて職場えんの面白さをかみしめた一日です。

(ケアプランえん／川村はるみ)

◆小規模多機能ホームまどか◆

～まどかスタッフ、コロナの日々～

私は現在3人の育児の真最中です。3ヶ月前までの生活といえば、毎朝小学生を送り出し、保育園に送り届け、職場に向かい、慌ただしく過ごしていました。

2月になり新型コロナウイルスが少しずつ騒がれ始めましたが、全く現実味がありませんでした。

3月に入り突然小学校が臨時休校。けれども、うちの子ども達は学童クラブ・保育園に通い、あまり変わらない日常を過ごしていました。変わったことといえば、朝のお弁当作り。給食のありがたみを実感する毎日でした。

4月7日『緊急事態宣言』を受け保育園・学童クラブも自粛協力。飲食業の旦那もお店が休みとなりました。私が働いている間は、旦那が子ども達の育児をしてくれていましたが、気分転換で外に出ることもあまりできず、家中にストレスが充満しているのをヒシヒシと感じていました。

『緊急事態宣言』が延長になると本格的に保育園も学童も休園。旦那は少しずつ出勤が増え始め、ありがたい反面、私が休まざるをえなくなってしまいました。日々の過ごし方といえば、テレビゲームや1000ピースのパズル、たまに人のいないのを見計って近所の公園に遊びに行ったり…。そんな毎日を送っているとだんだん不安を感じ始めます。

まさか学校始まってないよね…？

保育園行ってないのうちだけじゃないよね…？

胸の中がざわつき始めていました。

そんな時、まどかから夕方1本の電話がありました。

「お子ちゃま連れて遊びに来ればー！って思って電話したー！！」と元気なスタッフの声が、たった5分で私の心を救ってくれました。実際には行けなかったけれど、1日も早くふつうに子どもを連れてまどかに行ける日常が戻ってくることを願いながら、今できることを精一杯やり続けようと思います。

(まどかスタッフ／増子仁美)



人気メニュー（昼食） **ベスト3**



昼食メニューの中から好評なものを**ベスト3**を紹介します！

1位…**鮭の塩焼き** 2位…**ドライカレー** 3位…**天ぷら**

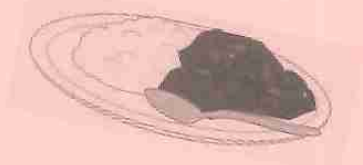
1位の鮭の塩焼きはお弁当メニューの定番ですが、えんの食卓で出している鮭は柔らかく脂がのって塩加減もちょうど良いと好評です。気のせいか鮭の塩焼きの日はお弁当お休みする利用者さんが少ないような…。

2位のドライカレーは、ルーを使っていないのであっさりしていて、食べやすいです。今回はドライカレーのレシピを紹介します！簡単なのでぜひ作ってみてください！

ドライカレー（2～3人分）

《材料》

- | | |
|---------------|--------------------|
| ・牛豚合いびき肉 240g | ・玉ねぎ 170g |
| ・にんじん 60g | ・しょうが 2.5g |
| ・にんにく 2g | ・サラダ油 3g |
| ・ケチャップ 12g | ・カレー粉 7g |
| ・ウスターソース 16g | ・しょうゆ 4g |
| ・赤ワイン 6g | ・粉チーズ 2g |
| ・コンソメ 2g | ・トマトジュース 80g |
| ・塩 2g | ・牛乳 20g |
| ・はちみつ 1g | ・水 60g |
| | ・水溶き片栗粉：水分が多ければ入れる |



《作り方》

- ① 野菜はみじん切りにする。
- ② 鍋に油を入れ野菜とひき肉を炒める。ひき肉の色が変わったら水、トマトジュースを入れ5分煮る。火を弱め他の材料も入れ煮る。水分が多ければ同量の水で溶いた片栗粉を入れ、かたさを調整する。

これからもおいしいものを提供できるよう頑張ります！ご感想を聞かせてください。



認定NPO暮らしネット・えんへの寄付のお願いします！

税制上の特例措置により、個人は寄付金控除、法人は損金算入等が受けられます。相続財産の寄付も対象となります。

いただきました寄付は、介護知識の普及、研修事業、だれでも食堂にいざ、みんなのコンサートなど文化事業、職員の処遇改善にも充てさせていただきます。

◆今後の地域交流事業について◆

認知症カフェ、だれでも食堂にいざは
2021年3月までお休みさせていただきます。

— 認知症電話相談のお知らせ —

毎月第3水曜日 10時から16時まで

認知症に関する知識や、受けられる介護サービス等の情報提供、悩みごと、認知症のある方に対する介護のコツや症状を踏まえた生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

TEL 048-480-4150

～ 職員大募集！！ ～

暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか？

ヘルパー(訪問介護職員)・介護職員募集しています。

資格がない方も資格取得のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

地域で暮らし続けていくために 2019年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:https://npoenn.com/